

「さ さ え」

2004.4 発行 情報誌 第7号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所 / 福岡県田川市伊田4395 福岡県立大学生涯福祉研究センタ - 内

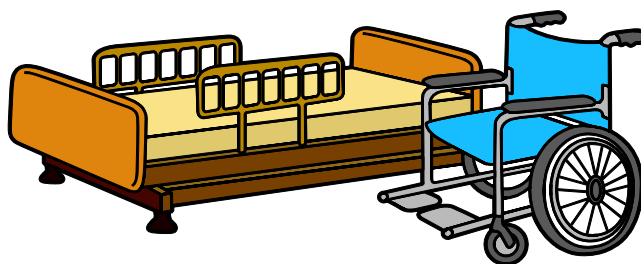
TEL / FAX 0947 - 42 - 2286

E - mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします



小さな芽を

すこやかに育てたい



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

NPO 福祉用具ネットのロゴマークは明石尚典さんのデザインです。

第3回総会を迎えるにあたって

理事長 豊田謙二（福岡県立大学教授）

2002年11月にNPO福祉用具ネットが設立されました。福岡県立大学福祉用具研究会は今年で7年目を迎えています。研究会では従来通り、福祉用具の活用事例や住宅改修事例などの研究報告でディスカッションを続けています。福祉用具ネットでは、専任による相談事業とともに、啓発・調査研究、そして福祉用具開発事業を進めています。昨年度は香春町の委託を受けて「福祉のまちづくり基本構想」づくりのお手伝いを致しました。

本NPO法人は「介護シャワー」、「洗髪シャワー」に引き続き「床ずれ予防マット」の開発を進め、昨年10月東京で開催された国際福祉機器展に出展いたしました。試作段階のものでありましたが、強く大きな関心を寄せていただき、大いなる励みを得ました。この床ずれ予防マットは、本NPO法人を中心として九州日立マクセル（株）、太陽セランド（株）、佐賀大学の松尾清美助教授、そして福岡県立大学と県工業試験場の連携のうちに開発されているものです。そのセールスポイントは床ずれ予防に加えて、寝ている状態から起こすこと、車いすに容易に乗り移れること、そして寝心地のよさを追求したものです。新しいタイプのマットとして期待に添えるものであります。

本年10月に再び国際福祉機器展に出展しますが、この頃には販売の体制も整っていると思います。

今後とも、本NPO法人は自立支援の初心に基づいて、福祉用具活用に向けた相談、啓発・研修事業とともに積極的に福祉用具の製品開発に取り組むつもりです。今後とも一層のご支援およびご助力を賜りますように、何卒会員として本NPO法人を支えていただきますように、切にお願い申し上げます。

福祉用具と色彩について

カラーコンサルタント（NPO福祉用具ネット会員）

相川 久美

介護や看護に関わる資格の取得や、その種の専門の学校に進学を希望される方が増えてきました。近年、医療関係の専門学校で、施設の構造上の問題としての色彩調節のあり方や、人の心や体と深く関わる色彩心理についての授業をしています。最近、学生たちの他者に対する共感力について気になり始めました。それは、十代後半から二十代前半までの学生たちがよく口にする、次のようなセリフがきっかけでした。“就職率を考えたら、今はこの分野がいいよね・・・。”

ここ数年の就職率の悪さを考えれば、その選択の動機を寂しく思うより、賢いと誉めるべきかもしれません。もちろん今後の努力で、素晴らしい技術を身につけたプロの介護職や看護師に育っていったけると信じています。しかし、育った時代背景も違う、身体機能も全く異なった高齢者や患者さんのことを、就職率の良さを動機としてこの道を選んだ学生たちが、どう理解して接していくことが出来るだろうと、不安も感じてしまいます。

昨年春、友人のお母様が脳梗塞で倒れました。手術を受けた後に退院され、現在は入院していた病院と併設されたリハビリテーション施設で、自宅に帰る日を目差し訓練をされています。友人は週二回、お母様に着替えを届けていますが、そこで気づいた興味深い話をしてくれました。お母様の毎日の着替えは看護師さんに委ねられていますが、病院とリハビリテーション施設では、お母様が身に付けている衣服が明らかに違

うというのです。友人と、そのご家族がお母様に用意した衣服は、上着とズボンをそれぞれ数枚づつ。上着はオレンジ色や黄色などの明るい色と、グレーや茶色などの暗めの色を、両方必ず用意していたと言います。ところが、病院では明るい色の上着も暗い色の上着も、どちらも着せてくれていたのに、リハビリテーション施設に移ってからは、暗めの上着しか着せられていないというのです。リハビリテーション施設で担当されている看護師の方に、直接その理由をうかがうことが出来ないで、あくまで私の推測にすぎませんが、七十代の女性に明るい色の上着は、不適切だと考えられたのではないのでしょうか。一人で着替えの出来ないお母様には、衣服の色の選択権がありません。選択権は看護師さんにあり、なぜか暗めの色のみが選択の対象になっています。ご家族は意識的に何色が用意されているのですが・・・。

医療と色彩の関係は深く、ここでその全てに触れることは出来ませんが、若い学生との関わりもきっかけとなり、介護や看護をする側とされる側の溝を浅くし、共感性を高める手段の一つとして、私は色彩の有効活用を提案しています。一つの例としては、介護される方の身の周りの色を、明るくきれいな色でつつんで差し上げるようお薦めしているのです。(但し、最も重要なのはご本人の希望であり、体の状態によっては適切でない色彩もあります。)特に、若い介護職や看護師は経験も浅く、お世話する相手の気持ちを汲み取ることは、なかなか難しいようです。また、子供の頃から男色(=青色系)や女色(=赤色系)といった区別もなく、明るい色も派手な色も違和感なく身につけて育っている世代と、片や「男子厨房に入らず」で育った高齢者との間では、その隔世の感はかなりなものではないのでしょうか。しかし、仮に高齢者が年相応?の、近所に恥ずかしくない?地味な色を身に付けず、明るく派手目な色を身に付けていたらどうでしょう。これは私の仮説ですが、若い介護職や看護師にとって、好みの色が似通った相手は親しみを感じる存在であり、共通項のある、話しかけ易い相手になるのではないのでしょうか。そして、お世話する側の包容力が高まれば、患者さんや介護を受ける高齢者の方も、安心して心や体の不自由をうったえることが出来、日常のストレスが軽減されるのではないのでしょうか。その結果、治癒までにかかる時間が短縮したり、ご家族や周りの方との関係が良くなったりすれば素晴らしいことだと思います。

今後更に QOL の向上を目差し、介護や看護を受けられる方々の身の周りや、車いすなどの福祉用具関連に至るまで、自由にご本人に色彩を選んで頂けるようになることを祈っています。

相川久美さんのご紹介

相川久美さんは、NPO 福祉用具ネットの活動でもさまざまなご支援とご協力をしていただいております。

最近では、西日本新聞に月 1 回カラーについて連載記事も執筆され、大変ご活躍をされています。NPO 福祉用具ネットのアドバイザーとして大変頼もしい色彩の専門家です。

西日本新聞連載中の一部記事のご紹介
(2004 年 3 月 2 日付け)



NPO 福祉用具ネット主催の研修会に参加して

ホームヘルプ 愛

所長 石田 信子

連絡先 〒822-1405 福岡県田川郡香春町中津原 1872-3 t e l 0947-49-3200

“共に生きる” をモットーに平成 13 年 7 月にホームヘルプ愛を発足させました。訪問介護と居宅介護支援の指定事業者として、田川市郡の高齢者の方々との交流をさせて頂いております。15 年度からは田川市・方城町の委託で精神障害者ホームヘルプに関わることになり、全員で日々勉強を強いられております。

NPO 福祉用具ネットには団体会員として入会し、各種の研修会に参加し、心強い味方になっていただいています。

訪問介護の業務は決まった日時に訪問することが必要であり、多数のスタッフを研修に参加してもらうためにサービス提供責任者はスケジュール調整に苦勞をして送り出しています。地元で開催していただけることで参加も容易になり、参加した人の目の輝きが変化してきます。利用者と接する時間が一番長いヘルパーが生活全般を観て、援助者不在時の生活までを洞察するには、福祉用具や住居、行政サービス・民間サービスのことを熟知して専門職へ提言できる力を身につけることは重要です。家事援助や身体介護だけをこなして終わり!という訪問介護屋に終ることなく「学ぶ」、「考える」ことが、日常のホームヘルパーとしての当然の仕事として果たせる、そんな意識の高いホームヘルパーを目指して、スタッフ全員で頑張っていけたらと思っています。そんな私達にとって本当に頼れる存在として NPO 福祉用具ネットが、これからも福祉用具のこのみならず多くの研修の企画をして提供していただけますようお願いいたします。

そして、訪問介護の全体の質の確保という課題に向けて、それぞれの事業所間の壁を取り除きネットワークづくりを推進しなければならないと考えています。心で思うだけでは変わりません。どうか同じ思いの方お声をおかけ下さい。取り掛かりとして、現在社内で実施している研修もオープン参加にして現場のヘルパーさんの顔合わせの場にできればと考えています。ご参加お待ちしております。

NPO 福祉用具ネット主催の研修会に参加して

(有)西日本在宅介護センター

所長 山本 大五郎

連絡先 〒825-0001 福岡県田川市大字伊加利 659 t e l 0947-42-3162

当事業所は、昭和 61 年 4 月 1 日より個人経営という形で訪問介護事業を開始しました。その当時は、派遣対象者も個人契約制でおこなっていました。平成 3 年に田川市の要望に依りシルバーサービス振興会へ認定申請を行ない、翌年の平成 4 年 2 月にシルバーサービス振興会認定事業所となり、4 月より田川市とホームヘルプサービス事業委託契約を結び個人契約から委託派遣へと移行しました。

平成 7 年 7 月からの法人化により(有)西日本在宅介護センターとして現在に至っています。

平成 12 年 4 月からの介護保険の導入に伴い、居宅介護支援事業及び居宅訪問介護事業の二つの事業を柱としてまいりました。しかし、利用者のニーズに対応していくためにはサービスの拡充の必要性があると考え、平成 14 年 9 月より田川市見立においてグループホームを設立しました。施設名は地名から「グループホーム 見立」としました。翌年の 2 月には一般乗用旅客（患者等輸送限定）自動車運送事業の許可を受け

移送サービスを開始しました。このように私どもは利用者のニーズの多様化にできるだけ応えられるよう事業を展開してまいりました。

現在、当事業所で働く訪問介護員の約半数は実務経験が5年未満であるため技術力や知識がまだ充分ではなく、当初は当事業所だけで研修会等も行い職員の資質の向上を目指してきましたが、設備不足や適切な講師の確保は難しいなどの問題点がありました。そのような時、「NPO福祉用具ネット」にて介護者研修会や福祉用具フォーラムが開かれていることを知りました。

団体会員として参加し、職員の研修の場として活用することにしました。訪問介護員にとっては休日に研修を受けることは大変ですが、技術力の向上は本人にとっても利用者にとっても大切な事であり出来るだけ多くの社員が参加できるように事業所としてもバックアップするよう努めています。訪問介護員が職に誇りをもつためにも学ぶ機会は、大切な一歩です。事業所としても受講者に対しては評価する姿勢が必要だと考えています。

NPO 福祉用具ネットの主催する福祉用具の選び方・使い方等の研修は他の研修会では集められない福祉用具の種類、量を取り揃えられ、実践的な研修内容であり有意義な内容でした。これからも多くの介護に携わる方々が参加していき地域的なレベルアップが図れることを期待しています。



(有)西日本在宅介護センターの事務所



車いす利用者様の移送用福祉車両

NPO 福祉用具ネットのボランティア一期生が卒業



卒業式の日には最後の挨拶に事務局を訪れてくれました。

3月18日、福岡県立大学の卒業式が行われました。NPO福祉用具ネットの活動をボランティアで支えてくれた4人も卒業を迎え巣立つことになりました。研修会の準備から後片付け、印刷、まちづくりの調査、センターの草むしりまで、事務局の手となり足となって事務局を助けてくれました。とてもやさしく、素直で、頼もしい4人でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。全員就職も決定。これからは社会で活躍してくれることでしょう。

*写真左から、社会福祉学科の高崎さん、松本君、高橋君、須藤さんです。

NPO 福祉用具ネットの活動にボランティアとして参加して

佐賀大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 修士課程 高橋 聡明

(福岡県立大学人間社会学部 社会福祉学科 卒業生)

僕は、この春、佐賀大学医学部大学院に進学をします。そこで学ぼうとしていることは、障害者や高齢者の生活行動支援学です。日常生活にさまざまな支障をもつ高齢者や障害者が自立を目指し生活を営んでいく時、どのような福祉用具を使用し、どのように住環境を整備してあげれば、本人の立場にたった支援になるのかを理解するために、本人、また本人を取り巻く要素に焦点を当て、研究していこうとするものです。

僕が、このテーマについて大学院で研究していこうと考えるようになったきっかけは、3年生の時に「福祉機器論」を受講してからです。福祉系大学に来て、ただ漠然と社会福祉について考えていた僕にとって「福祉機器論」の講義はとても新鮮で、職業としての社会福祉士の役割について初めて真剣に考えるようになっていったのです。講義を担当してくださったのは、当時、総合せき損センター医用工学研究室主席研究員(現、佐賀大学医学部助教授)の松尾清美先生でした。松尾先生は福祉機器について自らの体験を踏まえながらわかりやすいように、また熱意のこもった姿勢で教えて下さいました。講義の中で毎回のように「あなたたちが、社会福祉士になって何をなすべきか」と問いかけられました。それからというもの、授業中でも日常生活の中でも自分自身でも考え続けるようになりました。もっと、この松尾先生の側にいて学びたいという思いがふつつつと湧いてきました。この思いが先生に届いて欲しいと願いつつ NPO 福祉用具ネット(以下、NPO)に駆け込みました。NPO の行動力、俊敏性は素晴らしく、すぐに先生に繋いでもらい、思いと一緒に伝えてくれました。先生から「一緒に勉強しよう」という言葉をもらった時には何ともいえないような感動を受けました。

時期的に進路を決める時であり、学部から、そのまま県立大学の大学院に進むことも考えていたのですが、とにかく松尾先生のもとで勉強したい、荷物持ちでもよいから側にいたいと思っていましたので、佐賀大学の大学院受験をすすめて下さったことはとても嬉しく、無事に合格できた時は最大の喜びでした。

目的を見出せなかった自分を導いて下さった松尾先生、自分の強い思いをしっかりと受け止めささえてくれた NPO 福祉用具ネットに対する感謝の気持ちはいつまでも忘れることなく、自分の信じた道に背かぬよう、やるべきことに自覚をもって歩んでいきたいと思います。

NPO 福祉用具ネットの活動にボランティアとして参加して

医療法人敬仁会 介護老人保険施設 友愛苑 松本 高志

(福岡県立大学人間社会学部 社会福祉学科 卒業生)

私が、NPO 福祉用具ネットと関わり始めたのは、同期メンバーの高橋君に誘われたのがきっかけでした。NPO がどのようなものかよく分からずに軽い気持ちで参加したので、はじめは戸惑いでしたが、この活動を通して多くのことを学びました。まず、数多くの職種(建築士・福祉用具事業者・開発メーカー・カラーコーディネーター・介護支援専門員・理学療法士・作業療法士など)の方々に関わることで幅広い視点を学びました。また、福祉用具フォーラム、研修会、福祉のまちづくり計画など一つの事業には計画の作成から運営が多くの人たちの努力の上に成り立っていることを実感することができました。これらを含めた多くのことを学生という立場で勉強できたのは、これから先の大きな糧になるだろうと感じています。そして、

何よりも NPO の関係者の方々が私たち学生にとっても暖かく接して下さったことにとても感謝しています。本当に家族のように暖かかったです。これも多くの人の善意と協力がなければ成り立たない非営利組織 NPO だからこそ生れた深い絆ではないかと感じています。大学生活が終わり、学生として関わる事はできませんが、これからは社会人としてできる限り関わっていきたいと思っています。末永いお付き合いで宜しくお願いします。本当に今まで有難うございました。

ボランティア募集中 すてきな出会いがあるかも・・・
NPO 福祉用具ネットの活動は学生や会員の方達のボランティアに支えられています。

活動報告

事務局 大山 美智江

平成 15 年度の主な活動内容は以下の通りです。

- 方城町ホームヘルパー2 級課程 講師派遣委託 (平成 15 年 4 月～5 月)
- 介護者研修会 平成 15 年 6 月 21 日 住宅改修について
平成 15 年 8 月 2 日 脳血管障害と福祉用具について
- 福祉用具選定セミナー 平成 15 年 10 月～11 月 4 日間の日程で実施

福祉用具と制度	口腔ケアと福祉用具
痴呆関連	移乗
コミュニケーション関連	住宅改修
起居関連・褥瘡予防用具	移動
歩行支援 杖・歩行器	福祉用具体験

- 介護支援ネットワーク協議会主催の「介護・福祉関連サービス展示会」に介護シャワーを展示
平成 15 年 5 月 14 日 クローバープラザにて
- 福祉用具フォーラム 2003 11 月 29 日・30 日開催
42 社のご協力を得て、福祉用具・健康機器・福祉車両・介護用品の展示と基盤講演・事例発表会を開催
- 香春町の福祉のまちづくり計画策定事業委託は 3 月末で完了いたしました。(7 月～3 月)
- トランスファーボードを利用した「移乗マニュアル」冊子を 11 月 29 日発行 (発売中)
- 方城町コミュニティセンター工事に伴う助言の覚書を(有)回工房と交わし現在実施中(4 月末までの予定)
- 情報誌「ささえ」を 4 月・7 月・10 月・1 月と 4 回発行
- ホームページにて活動を公開 随時更新中。
- 福祉用具・住宅改修に関する電話相談
福祉用具や住宅改修の相談以外にも介護やケアプランに関する内容もある。
地域は田川市郡以外にも飯塚 嘉穂郡 福岡市 北九州市 遠くは関東からもあった。
- 平成 14 年度より産炭基金の助成を受け、継続して平成 15 年度も福祉用具の調査・研究開発を実施した。(2 年目)
- 東京国際福祉機器展に研究開発した新製品エアマット((P・Wave)と介護シャワー・洗髪シャワーを出展
平成 15 年 10 月 15 日～17 日 (東京ビッグサイトにて)
- 平成 15 年度産炭基金研究開発事業も成果が認められ、続いて平成 16 年度も引き続き助成が受けられることが決定。(2 月)

事務局 より

平成 16 年度通常総会開催

日時 5 月 12 日(水) 18 時から

場所 福岡県立大学生涯学習資料室

*** 通常総会のご案内**

5 月 12 日に通常総会を開催いたします。正会員の方は是非ご出席下さいますように御願いたします。尚、出欠のお返事は 5 月 8 日までに同封の出欠届用紙(委任状)に必要事項を記載の上、ファックス又は郵送でお返事下さい。新年度の更新手続きがお済でない方は事前に手続きをしていただきますようお願い致します。やむを得ずご欠席される方は委任状の提出を必ずお願いします。

*** NPO 福祉用具ネットの新会員を募集中 !!**

個人入会金 1,000 円 年会費 4,000 円 合計 5,000 円

団体入会金 2,000 円 年会費 30,000 円 合計 32,000 円

賛助会員 1 口 3,000 円

*** 福祉用具・住宅改修の電話相談は無料です。是非ご利用ください。**

電話 0947-42-2286 (月曜日～金曜日 午後 1 時から 4 時まで)

平成 15 年 11 月 29 日

NPO 福祉用具ネット発行

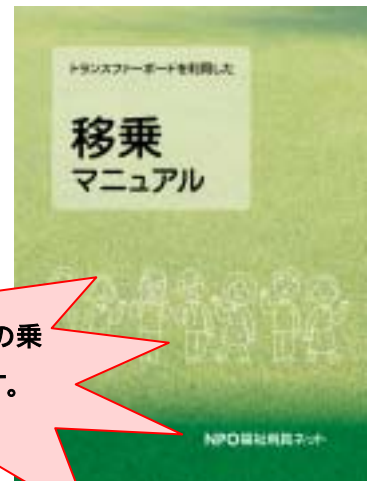
「移乗マニュアル」 発売中

一冊 500 円 (郵送は送料負担となります)

オールカラー 22 ページ



ベッドから車いすへの乗り移りの介助方法です。



表紙デザインは林真由美さん

トランスファーボード(介護保険レンタル品目)を利用した移乗方法についてカラー写真で解説。自立移乗・介助移乗(前方介助)(後方介助)など分かりやすく説明したマニュアルです。

購入方法は、直接「NPO 福祉用具ネット事務局」までお問い合わせ下さい。

TEL / FAX 0947-42-2286